

きっかけは販売先からの要望

大変かも知れない、でもGAPは行くと良い取組み

片平農園では、従来、初冬になると農場の後片付けを行い、冬を越す準備を行うのが慣例でした。GAPの取組みを進めたことにより、特別に後片付けの日程を作る必要なくなりました。

片平さん自身、『時間も資源と考え、効率よく業務が進むようにする』など経営に対する考えが変化したとのこと。片平農園の取組みについて紹介します。

1 農場名：片平農園（伊達市）

2 栽培面積：20ha

3 栽培品目（主要なもの）

タマネギ、ブロッコリー、キャベツ、てんさい、秋まき小麦、かぼちゃ、さつまいも

4 取得GAP・取得年

- ・JGAP 個人認証（たまねぎ）・R2年
- ・GLOBALG.A.P. 団体認証（ばれいしょ・かぼちゃ）・R2年団体途中加入、R3年より正式加入

5 GAP取組み

- ・認証の2～3年前からコツコツと農場の整理整頓を開始
- ・開始当初は、『農場の図面作成』、『農場の整理整頓』で苦勞したが、現在、苦勞は感じず、整理整頓は意識的に行うようになった。
- ・現在、特に意識して取り組んでいる事
 - ①整理整頓の徹底、道具の管理、資材の管理
 - ②作業記録、作業日報の作成、作業記録のデータ管理・生産工程の見える化

6 農場の変化

- ・労働環境が整備できた、特にトイレの整備が進んだ（軽トラにも携帯用トイレ配置）
- ・肥料・資材などの過剰在庫が無くなり、年間使用料も把握できている
- ・農薬の適正管理と利用が以前よりも進んだ





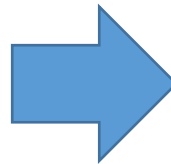
【農薬庫の外観と掲示物】



【整理された内部】



コンテナを改造し自作した廃棄物一時保管場所



蓋を開け閉めして使用

7 これからGAPに取り組む方へ

片平さんにこれから取り組む人はどうしたら良いと思いますか？とお尋ねしたところ、『GAPの取り組みは良いだと思うが、認証自体は費用がかかるので、目的が明確になってから取り組みを始め、農場内の整理整頓から手がけるのが良いと思います。』とのお話を頂きました。

8 苦勞したこと

始めた当初は、①書類面では農場の図面作成、②現場的には農場の整理整頓(2-3年前から取り組み)だったが、認証取得から2年経過し(取り組み開始から4~5年)、②の整理整頓は苦勞を感じなくなった、意識して取り組みように変わった。

GAPは農業者が自分の経営より良くするためのツールです

特に、労働安全・食品安全・環境保全面などの取り組みが目に見えるようになり、実践状況が確認できます。続けていくことで経営の変化も感じ取れることから、農場の将来を考える時に有用です。積極的に利用しましょう。